

コロナ禍の世界

横浜市駐在員レポート

④

3月24日夜、翌25日から3週間、全土封鎖（ロックダウン）を行うとのモディ首相の演説を聞いた時、真っ先に頭に思い浮かんだのは飲料水の確保だった。

インドに駐在する身として、ボトルウォーター無しでは生活が維持できない。ネット注文も全て在庫切れの表示。翌朝慌てて行ったスーパーで商品があるのを見た時、とても安堵したことを鮮明に覚えている。世界で最も厳しいと言わ

街から人や車がパタリと消え、普段は車のクラクションが鳴り響く街からは、鳥や犬の鳴き声しか聞こえなくなった。まるでゴーストタウンに迷い込んだかのようだった。

感染者が500人に満たない中で始まったロックダウン。だがこの1カ月は毎日1万人を超すペースで

インド・ムンバイ



ロックダウンで人や車がすっかりいなくなった街
= 3月27日、ムンバイ市ボワイ地区

街から人や車消えた

れたインドのロックダウン。飛行機や鉄道など公共交通機関は全て止まり、オフィスも立ち入り禁止。外出が許されたのは、徒歩圏内のスーパーや薬局への買

増え続けており、6月下旬には千倍の50万人を超えた。うち30万人以上は既に回復している。だが、ロックダウンの期間は3回延長され、13億人以上が68日間必死に耐えたにもかかわらず、3カ月たった今もピークアウトが見えない現実は今もつらく残念で、歯がゆくもある。見えない不安

との闘いは、本格的なモンsoon（雨期）を迎えても、まだ終わりを迎えない。
（横浜市ムンバイ事務所長 松島 一志）

■ 随時掲載